

「トランスポートビークル」のモニター使用始まる

歩行機能が弱ってきた高齢者が、その運動不足解消と公園などの屋外を散歩する楽しみを見いだすためには、介助者による何らかの手助けが必要となる。また、高齢者ばかりではなく、障害のある子供達も、家族や友達と一緒にサイクリングをすることができれば、楽しみを共有することができる。このような目的から、技術研究所では数年前から「トランスポートビークル」と称した用具を開発してきた。

「トランスポートビークル」とは

この用具は、車いすと自転車をドッキングしたようなものであり、前方の車いすには障害者や高齢者を乗せ、後部の駆動ユニットには介助者が乗車し駆動する移動用具である。

元来、障害児をお持ちのお母さんのニーズに対応して開発を進めてきたもので、お店の中での使用なども考慮し、駆動ユニット部分が、車いすの下部に収納出来るようになっている。さらに、車いすと駆動ユニットは工具を使用せず分解も可能である。

ユニバーサル用具開発調査業務に採用

(財)都市緑化技術開発機構が募集した「ユニバーサル施設・用具開発調査業務」に応募し、この「トランスポートビークル」が採用された。この事業は、各地の都市公園等のレクリエーシ

ョン空間において、高齢者、障害者の方々が健常者と共に楽しむために、必要な機能性を備えた、ユニバーサルデザインの用具を広く全国に紹介し、都市緑化空間の利用をさらに推進しようとするものである。当技術研究所としては、設置後のモニター調査の結果を翌年の改良に反映していく所存である。

各地の公園に納入

平成11年度は、北は北海道から南は兵庫までの全国6箇所の公園に、合計14台を供与し、モニターを開始した。東京都、立川市にある昭和記念公園では、介助ボランティアの試乗会を実施したほか、広い公園等では、歩くより楽に、早く、長い距離を移動することが出来る。また、公園の施設内の移動や、登り坂では、駆動ユニットを車いすの下部に収納して介助者が押して歩くことも可能である。

今後に向けて

「トランスポートビークル」は、未だ製品化されていない。現状ではいくつかの問題点も含んでいるが、利用者の皆さんに使用してもらい、利便性や改良点を指摘してもらうことにより、製品化の動きも加速されることと思われる。



北海道子どもの国公園



神戸市しあわせの村